

障害者・障害児施設のための施設環境設計チェックリストの作成
施設環境実態に基づく障害者・障害児施設の環境設計のあり方 その3

障害者施設 障害児施設 居住環境

正会員 ○宮崎 隆弘*1
三浦 昌生*2

1. はじめに

昨年度行った居住環境の実態調査¹⁾の結果に基づき、本研究は施設職員や利用者の要求を満たす建物の設計を可能にする「障害者・障害児施設のための施設環境設計チェックリスト」(以下、チェックリスト)を作成することを目的とする。

2. チェックリストの作成

図1はチェックリストの目的を表したものである。障害者・障害児施設の施主には福祉に対する多くの経験があり、それに対して、設計者の側には多くの建築設計資料がある。これまでは、建物に対する施主の要求に設計者がこたえる形で建物が建てられてきたが、施主が建築の知識に乏しいため、自らの要求を明確にできないことがあった。このため、設計者が施設職員や利用者の要求を設計時に十分に把握できず、設計者の想像力に頼るため、設計者の能力や資質に左右され、施主の意図とは異なる建物が建てられてしまうことがこれまでの実態調査から分かった。

このような状況を改善するため、実態調査の結果から居住環境に関するコメントを抽出し、安全性、健康性、快適性、利便性の4点に分類した。そして、安全性や面積・寸法は建築設計資料が比較的充実しているの、健康性、快適性、利便性を中心にチェックリストを作成した。

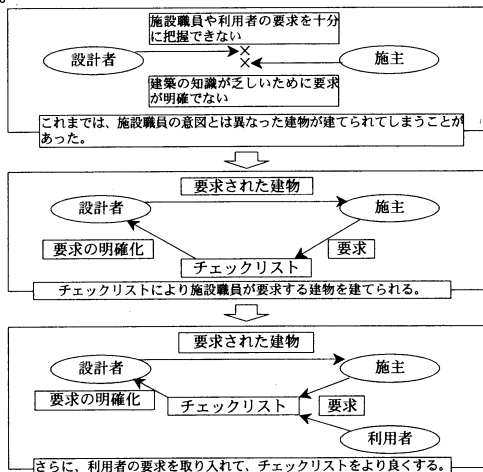


図1 チェックリストの目的

さらに、利用者のニーズによって提供するサービスを変える場合、利用者自身による自治会と意見交換を行っている施設もある。施設職員だけの意見では利用者を援助しやすい方向に偏りがちであるという観点から、利用者にも使いやすい建物となるよう、利用者に対するヒアリングも実施した。

これにより、たとえ施主が建築の知識に乏しくても、チェックリストを通して、設計者に要求を明確に伝えられると考えられる。

3. 施設関係者によるチェックリストの評価

試作したチェックリストを昨年度実態調査したうちの4施設とSo施設に紹介された利用者へ郵送した後、直接会って意見を聞いた。その際のヒアリング内容の概要を表1に示す。すべての施設において「目的は大変良いが、試作のチェックリストはチェック項目が足りない」という意見であったため、それぞれの観点から足りない項目の指摘を受けた。さらに、Ak施設の指摘から施設生活をイメージしやすいよう、項目を整理し直した。表2は现阶段のチェックリスト全183項目から42項目を抜粋したものである。

4. チェックリストの利用方法

利用方法としては、施設職員が利用者に提供したい居住環境やサービスの内容に基づいて、必要と思われる項目に印をつける。このチェックリストはすべてを満たす必要はなく、施設の方針によって印をつける項目が異なる。すなわち、施設職員がこのチェックリストから自分の施設に必要な項目を選択することで、施設それぞれの個性を引き出すことが可能となる。しかし、「居室に最低限必要な広さがほしい」といった漠然とした要求には、さらにa、b、c、dといった補助的な項目を設け、施設の方針に合わせてどの程度の水準が必要かという目安を設けた。そして、チェックリストを設計者に渡し、設計者が建築の知識を用いて、要求を満たすよう設計を行う。

5. まとめ

教育施設や集合住宅では数多くのチェックリストがつけられた結果、均一的な「型」に落ち着いた歴史がある。この均一的な「型」があることで、ある程度「建物のレベル」が保たれてきた。しかし、障害者・障害児施設には均一的な「型」がないため、施設によってレベル差が

The preparation of the facilities environment design check list of Centers for Handicapped Persons and Children

A Study on Environmental Design of Centers for Handicapped Persons and Children based on Environmental Realities Part 3

MIYAZAKI Takahiro and MIURA Masao

表1 各施設におけるヒアリング内容の概要

名称	So (神奈川県)	Mi (埼玉県)	Ta (神奈川県)	Ak (東京都)	Sh (埼玉県)
訪問日	1999.12.9	1999.12.12	1999.12.28	2000.1.6	2000.1.18
担当者	副施設長	理事長	利用者	職員2名	理事長・施設長
種別	身体障害者療護施設	身体障害者療護施設	身体障害者療護施設	重症心身障害児施設	知的障害者更生施設
ヒアリング内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害者の生活空間に重要なことは、安全性をふまえた上で、利用者と介助者の動線の確保と家庭空間に近づけることの2つである。 トイレや食事の介助より入浴介助を重視している。現施設では浴室への動線が重なり、職員の熟練度に頼っている。この辺りを建物がカバーしてくれると職員の熟練度に関係なく一定レベルの介助が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> たとえ施主が建築の知識に乏しくても、チェックリストを通して設計者に要求を明確に伝えられるというところは大変良い。 私が仮に新しく作るとすると、まず施設最低基準を考える。そして、その基準をクリアしながらその中でどういった工夫を行うか、さらにはそれに沿ってどういった工夫をするかが求められると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国や東京都の作成しているチェックリストを基にどういった建物が必要か考えてほしい。 まず施設を建設して利用者が後から決まるので、利用者の声は届きにくく、建物を設計する段階で障害者のことを理解して作ってほしいのでこういったチェックリストは必要。 例えば、利用者の権利擁護の視点などもっと幅広い視点が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストの形式が、「へか。」となっているので、実態調査だと勘違いしてしまった。目的からすれば「～してほしい。」となると思う。 チェックリストの項目が抽象的である。どうしてもこれは外せないという項目を具体的に挙げてもらいたい。 要望を列挙する形も良いが、理想の施設を目指すという考え方もあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 施主の漠然と持っているイメージを引き出すようなチェックリストが必要である。このままでは施主のイメージを固定してしまい、画一的な施設が並ぶ。 具体的なチェック項目なので、すべての項目に印が付き、取捨がつかない。もし、このような形式にするならば項目にランクをつけさせるなどの改善が必要であると思う。

表2 現段階におけるチェックリスト (全183項目から42項目を抜粋)

利用者中心の生活について	居室	浴室	トイレ	洗面台	廊下・階段	ベランダ・テラス	雨天
<ul style="list-style-type: none"> 居室に最低限必要な広さがほしい。 a.最低限、複数の家電製品を置くことのできる広さ b.さらに、車椅子が回転できる広さ c.さらに、利用者の家族や友達と話ができる広さ d.さらに、利用者個人の車椅子を置くことのできる広さ 	<ul style="list-style-type: none"> 居室の形態を複数用意してほしい。 a.個室 b.夫婦で住むために2人部屋 利用者にあわせた室温設定したい。 a.最低限、部屋ごとに室温設定したい b.しかし、上部吹き出し口のある冷暖房装置では床まで暖まりにくい c.そこで、床暖房を設置してほしい(施設建設後に設置するのはコスト面から難しい) d.さらに、施設どの場所に床暖房を設置しよ 利用者自身が室温設定したい。 a.利用者自身が室温設定したい b.利用者自身が室温設定できない場合、職員が支援したい 鍵についてどのような考え方を持っていますか。 a.居室のドアに鍵を設置する場合、その形状に注意してほしい b.利用者自身が鍵を使用したい c.利用者自身は鍵を使用できないようにしてほしい d.緊急時には施錠されていても職員が開けることができる 居室ごとの電気容量をどの程度のものとするか a.電気ポット、b.テレビ、c.ビデオ、d.ステレオ、e.電気毛布 	<ul style="list-style-type: none"> 居室の中に水まわりに関する設備がほしい a.トイレ、b.洗面台、c.調理をする場所、d.お風呂 居室の入り口付近に表札やポストがほしい 利用者個人の収納スペースを確保してほしい。 a.クローゼットなどの収納スペースをあらかじめ用意したい b.収納スペースはタンスなどをあとから設置したい c.日常的に使う収納スペースと季節ごとに使う収納スペースをどのように確保するか 個人の収納スペースの中に貴重品を収納したい。 2人以上の利用者が使用する居室の場合、利用者個人の収納スペースを夜間も使用したい。 a.専用の照明器具を設置してほしい 2人以上の利用者が使用する居室の場合、1人になることのできるスペースが確保してほしい。 a.ベッドの周りにカーテンを設置し、他の利用者から見えないようにする b.施設内に1人になるスペースを確保する 	<ul style="list-style-type: none"> 風呂の場所を選択できると良い。 a.個室か大浴場を選択したい b.露天風呂を設けたい 浴室の他に、シャワー室を設置してほしい。 「トイレ」 トイレの数を考慮してほしい。 トイレの形式を考慮してほしい。 a.和式と洋式の割合 利用者用トイレと職員用トイレが別れないようにしてほしい。 便座の強度を考慮してほしい。 トイレに臭気がこもらないようにしてほしい。 a.換気扇を設置してほしい。 b.脱臭器を設置してほしい。 c.換気のために窓を大きくしておいてほしい 利用者が失禁した時にすぐ洗い流したい。 「洗面台」 洗面台の広さや数を考慮してほしい。 利用者と蛇口との距離は適切なものとしてほしい。 車椅子利用者も洗面台を使用したい。 「廊下・階段」 利用者の動線が重ならないようにしてほしい。 「ベランダ・テラス」 ベランダで施設建物の外周を1周したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 風雨が外から浸入しないようにしてほしい。 a.屋外と屋内の境界を少し高くする b.屋外と屋内の境界に排水溝を設置したい c.ひさしを設置したい 美容院や理髪店がほしい。 娯楽設備がほしい。 a.アーケードゲーム機を設置してほしい b.居酒屋を設置してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 居室ごとに電気メータを設置してほしい。 「浴室」 介助者が寒くないようにしてほしい。 「トイレ」 トイレは頻繁に詰まることを考慮してほしい。 a.洋式トイレは比較的清まった場合の処理がやさしい b.和式トイレは詰まった場合の処理の難しい 「収納スペース」 駐車場がほしい。 「メンテナンス」 増改築をしやすくしてほしい。 a.将来構想をふまえてほしい b.維持管理しやすいように地元業者に依頼してほしい 「利用者に対する援助」 職員がまとまって会議をする場所がほしい。 利用者を小さなグループに分割したい。 a.最低限、定員が100名を越える場合、10人から20人のグループに分割する b.さらに、利用者の数にあわせて間仕切りを変えられるようにしてほしい 地域に開放するスペースがほしい。 ボランティアを受け入れる場所がほしい。 		

生じており、すべての居住者が一定のレベルで満足するためにはこのようなチェックリストが必要である。また、現在使われている施設の評価に応用することも可能である。今後は、少しずつ見直していく余地を残し

つ、早急に世に広めていきたい。本研究は文部省科学研究費補助金基盤研究(C)「施設環境実態に基づいた共生型障害児施設的环境設計のあり方の研究」による。

【既発表文献】1) 宮崎三浦他：施設環境実態に基づく障害者・障害児施設的环境設計のあり方 その1、日本建築学会大会梗概集、1999

*1 (株) 構造システム (当時芝浦工業大学大学院修士課程) 工修

Kozo System, Inc.

*2 芝浦工業大学教授 工博

Prof., Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.